

76回目 広島原爆の日



原爆が投下された1945年8月6日は雲一つ無い快晴だったと伝えられています

主なことば

市長

核の脅威の無い持続可能な

社会の実現を目指すべき

子ども代表

私たちには

使命があります

首相

ヒロシマ、ナガサキが

繰り返されてはならない

2021年8月6日、広島は76回目の原爆の日を迎えました。

国連加盟国の6割を超える122か国の賛成により採択された「核兵器禁止条約」が今年1月22日に発効されて初の原爆の日でもあります。

被爆者の平均年齢は84歳を超え、原爆の実相をいかに語り継いでいくことが課題であると言えます。

広島の子どもたちは平和の誓いで「あの日、広島で起きた悲惨な出来事。そのことを知り、被爆者の方々の思いや願いを聞き、考え、平和の尊さや大切さを世界中の人々や次の世代に伝えていかなければならないのです」と訴えています。

首相があいさつ文を読み飛ばしてしまうトラブルからもあるように、時間の経過と共に「平和」や「核兵器」に対する意識が変化していないのでしょうか？

時間の経過とともに減っていく被爆者の方々。

改めて私たちが何をすべきか考えていく機会にしてみませんか？



私たちは何をすべきか改めて考える機会にしてみませんか？